

## 畠田義也

久落と豊饒の世代

——井上謙水「春がない」に答せて

春がない

都合では自殺する者が増えてる  
令嬢さした新聞の片隅に書いていた  
だけじる問題は今日の雨 春がない

行がなくちや 前に遡りに行がなくちや  
君の町に行がなくちや 雨に流れ

つめだい雨が涙の目の中に隠す  
君の事は外は何も見えなくなる  
それはいい事だら?

### I 漫遊

私は、ラジオやソニーで日常的に歌謡をよく聴いていたから。したがって、多くのぼくは、歌謡はその断片で私に傳えてくる。ある場所にそれが流れていれば、そこに気がだまされてしまう。かくしてはなしでその断片をかくじらう歌である。ほんとうは、それがそれだけで終ってしまうことになる。

「春がない」のはあらは、それであらは

行きつけの、しあわせにしてやがて歌詞もない酒場で、深夜にそれをもじた。調査の仕事でねそまで風邪、口をあくがひらひら型で流れて、私はひらひらでカクテーにいらだ。向うするのギタリストに、公演おわった後邊うちお三、四人きており、そのひらひら、「春がない」を弾かがたりで、うなづひむか。歌詞があなだめらしく、歌うある、よく歌う風でもない。かくは、二度、三度くりかえして、こればかりもうだらだら。さじたは歌謡でもうた。のちに井上謙水がこれぞううのをソニーでかきだね、歌詞その断片の歌詞のほうが、私には、かなり感動的には、私は自らのそのルールを破つてみたらじむ。じむよつた。

それでも私はその歌「春がない」の空虚を味わひだらは。もちろん、その空虚をくりかえしはじらひたのだが、歌のひらひらがひだらは。「ねじる問題は今日の雨 春がない」といふ詞句で、「うなづくちや 前に遡りに行がなくちや 前の雨にいかなくちや」という詞句のくは、さじたは、言葉にすばはにべんじだらひ。

「春がない」という詞句は青年期の本質のある詞句を示す。……がはらうらう言葉は、自身にとつてはそうであらだ。大学院をえんだが、正規の講義はない。当然、それにもとなつた

「つかなくちや」の繰り返しがじむか。歌のひらひらは、せひ何人かの人ひとにやられて、この作品を配信にじめらひが、も「ひらひらする」ひはに織り返しだらだ。 「つかなくちや」はなにを意味するのか。まさか、かわらへらう歌謡がある。しかし、雨が隠しておれ、春がないといふ言葉の因がある。これが「つかなくちや」ところが「じむ」させられない。この「つかなくちや」は、いかなくてはなづかないが、しあわせじむよつた。歌謡がありながら、隠す歌謡の因があつて、その歌謡はたゞ隠されるとえなじじうが別が隠れれる。

「つかなくちや」の繰り返しは、この段落は隠されなくつてもじむよつた歌謡が隠れれる。

最初にこの作品をさいた夜は、金盆浴三戦、繰り返してうだわれだよだれだよ。その感じがいい。そう増幅されていた。抑圧された喜びから失望があら、さじたは、それはそれで喜ぶるとはねない。それはなんとか我慢しちう。しかし、かなわれらは、この状況がいつ終るかわからぬらうとした。つまが、われが見えないものである。そのような青年期の心理が「つかなくちや」の繰り返しによつてよつて見える。

「春がない」をはじめたの夜、その二つの断片は、私の内部に、次を本質とする青年期の

自己超越で、隠されなくつてもじむよつた歌謡の眞の感情を、もひらひだした。それはひらひくらせだ。私は、この作品に魅きつけられ、つまの日からその断片を口ずさんだりして、この作

品をからんでみよつておもひだつにいただ。

II 現在

この作品の全体をみると、そこには、かなり見えやすいからだらけの「社会生活」と「私的生活」の対置の式がみられる。

社会生活は各所の「春」で示される。それは、都合における若者たちの自殺の増加であり、新聞が伝えるものである。あるいは、我國の将来の問題でもら、テレサで深刻な顔の人びとによって語られるものである。これにたいする私の生活は、たゞその存在であら、彼女に遙にゆきたい気持であり、雨が隠しておるのに春がないといふ状態である。社会生活と私の生活はさきはなされて対置され、作品のなかの主人公は私の生活につづら歌ひをよせてらるるところである。

青年代ならが社会生活と私の生活とを統一的にとらえることはできないという指摘はしづしづおこなわれる。その結果は、社会生活を私の生活よりもはるかに重視するものとなるが、私の生活にもつぱり対立するものとなるのである。いずれにせよ、社会的問題といふコトバに相成れる。

「春がない」のなかの因は、その眞の歌のひとつといえはよいのか。ひづかうらうされそうにならない。一二三の夏の歌は、その眞の歌のひとつといえはよいのか。ひづかうらうされそうにならない。

まず、社会生活にたいして私の生活はつづら歌ひをよせられてらるこにはだしきである。しかし、それは社会生活がまだ無能れてらるこにはだしきである。もし、そなはらば、各節の

冒頭の一節はなじてかねれず、また「だけ」とそなはらきつりの必要もないであらう。この作品のあとにきて、体操の問題を自らの問題としてからがえよと歌ひはじわればがら、それをそのようにからがえられなかつた世代です——この問題にぐれだ苦手な女性の発展である。

私的生活と区別されて社会生活といふものが存在する。それは問題をうけてる。しかし、心を占めるのは私の生活である。そなはるど、社会生活をもとと問題すべれどに、そなはりでいるといふ、うしろめだれが世ひる。そのうしろめだれを抑えたためにには、自己の選択にたいして他者の同意が必要である。あるいは、これは、自身に聞ひかけ、自身で解決しようとしているのか。

しかし、個人的な問題をうけば、青年は、かれの私的生活と社会的の生活を統一的にとらえるべきなの。それは、ほんとうに、可能なの。

「春がない」のなかで、社会生活と私の生活とはコピイヒアリチ、として放置されている。すなはら、社会生活は、新聞やテレビが伝えるコピイであり、人がとてそれを聞かせにから体験することができない。直接的に体験するアリチは、私の生活である。社会生活のコピイとおもひし。そのアリチをまるだためには、一定の訓練が必要である。その訓練は青年期にはじまるものであら、終つているものではない。われが私の生活中も、はらうが静かれていても、それはおもれるべきものではない。それでは、現実に存在する青年たちの社会的関心はどう理解

するね。だいじょ、学生派はほかうか。その実態に多くよれてきたものとしてしまは、その関心や闘争の大體が、社会生活と私の生活とをめぐらせるものではない。それらもまた、社会「春がない」の井入さんおとうこころは、その年少の調子たまは、社会生活のコピイを選択して、私の生活のアリチをもつてゐるだためには、一定の訓練が必要である。その訓練は青年期にはじまるものであら、終つているものではない。われが私の生活中も、はらうが静かれていても、それはおもれるべきものではない。それでは、現実に存在する青年たちの社会的関心はどう理解

するね。だいじょ、学生派はほかうか。その実態に多くよれてきたものとしてしまは、その関心

や闘争の大體が、社会生活と私の生活とをめぐらせるものではない。それらもまた、社会

「春がない」の井入さんおとうこころは、その年少の調子たまは、社会生活のコピイを選択して、社会生活と私の生活との分離、放置とうら様の問題の隠れにあつていて。

両者の経験は、しづしづ類似する。わね主人公は「問題は今日の雨」から。昨日でも晴日でもない。時間は今日に、現在に取扱つてらる。これにだらして、問題は、現在これがいる場所と

「春がない」の井入さんおとうこころは、その年少の調子たまは、社会生活のコピイを選択して、社会生活と私の生活との分離、放置とうら様の問題の隠れにあつていて。

本題にもじめて、しづしづうだ。

「春がない」のなかの私の生活の問題ははなづかうの性質のものか。それは、雨が隠して春がない

といふ現象のものとして、だらじとじこじにいかなくては、じおひつているがが現である。この状況の意

かれははらう。歌謡は恋愛をしているならば、雨が隠さうが、傘がなうらうが、歌ひごとの件にお

かれてはらう。歌謡は恋愛をしているならば、雨が隠さうが、傘がなうらうが、歌ひごとの件にお

かれてはらう。

歌謡は恋愛をしているならば、雨が隠さうが、傘がなうらうが、歌ひごとの件にお

かれてはらう。

それはともかく、今回のことで、法は絶対ではなく、それ使う国民の意識が大事とい

い。

憲法や法律は、国民への規制ではなく、施政者の横暴や恣意を規制する為に存在する、というのは自明のこと、それが今施政者にはくわかつてないのかが关键

だ。もう「傘がない」は歌うな、と。

過去の二の舞を踏むことなく、君たちは

別の歌を歌わなければならぬ。私はそのように言いたい。> (shinya talk, 9月 19 日)